

戸塚区役所＋戸塚区民文化センターさくらプラザ

TOTSUKA WARD ADMINISTRATION OFFICE + TOTSUKA ART CENTER SAKURA PLAZA

No. 05-032-2014作成
新築
事務所/集会場/その他

発注者	横浜市, アートプレックス戸塚	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	鹿島・東畑設計共同体	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	鹿島建設	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

人と人をつなぐ地域のインターフェイス

戸塚駅西口再開発の一環として、区役所・区民文化センター・都市交通施設からなる複合施設を整備するPFI 事業である。

区役所は窓口機能以外にも多目的スペースや子育て支援スペース等の区民サービス向上に資する機能が付加され、区民文化センターは市民の文化芸術活動の場として、500名収容のホール、練習室、ギャラリーにより構成されている。

都市交通施設は戸塚駅利用者（27万人/日）の利便性向上を目的として、1階に交通広場、地下に駐輪場（1,300台）、駐車場（127台）が設置されている。

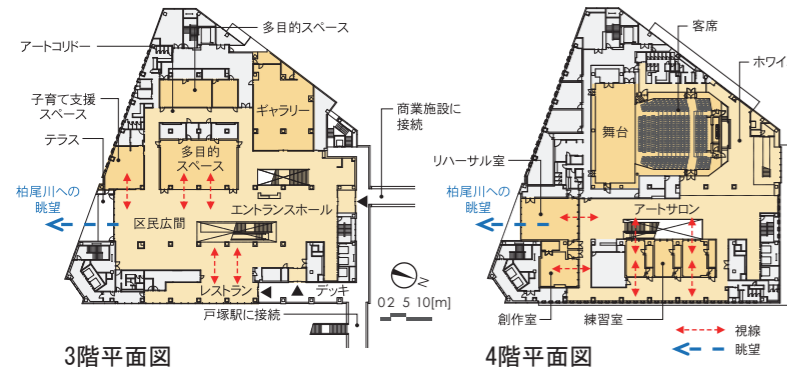
また、地下と3階で周辺の商業施設及び戸塚駅と連絡し、再開発エリア全体の回遊性を高め、一体的な賑わいを創出している。

多様な用途が積層する複雑なプログラムに加え、周辺施設との接続や交通広場等の都市計画上の制約の中で、動線計画を的確に整理して最適なプランを実現するとともに、利用時間・目的が異なる様々な人々が集まる公共施設として誰もがわかりやすい空間構成とするだけでなく、お互いの交流を深めることができる「まちづくりの拠点」となる施設を目指した。

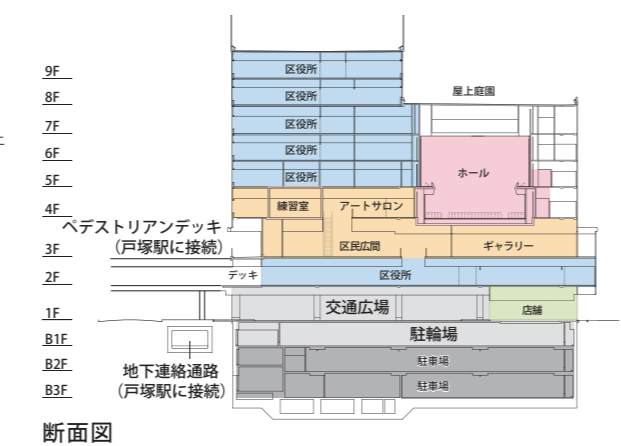
戸塚駅からペDESTリアンデッキで繋がる3階メインエントランスは、各種イベントが開催される区民広間や多目的スペース、ギャラリーで構成され、市民の情報発信・共有の場となっている。

区民広間を中心に各室を配置することで空間全体を見通すことができ、ガラス間仕切りにより積極的に開放することで、市民の様々な活動を互いに垣間見ることができる。

4階はホワイトと一体利用可能なアートサロンおよび練習室を吹抜に面して設けることで、エントランスから連続した立体的な賑わいを創出している。

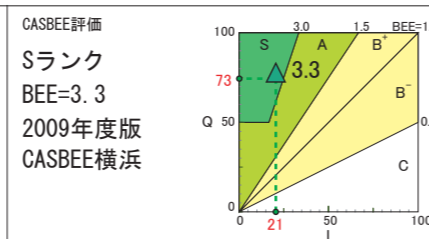


庁舎として確固たる輪郭をもつ外観



建物データ	所在地	神奈川県横浜市
	竣工年	2013年
	敷地面積	3,908㎡
	延床面積	34,448㎡
	構造	SRC造、S造、一部RC造
	階数	地下3階、地上9階

省エネルギー性能	CASBEE評価
PAL削減（事務所用途）36%	Sランク
ERR（CASBEE準拠）29%	BEE=3.3
LCCO ₂ 削減 26%	2009年度版CASBEE横浜



地域性に配慮した内装デザイン

インテリアには宿場町として栄えた戸塚の歴史を踏まえ、かつての色彩表現である四十八茶百鼠を随所に取り入れた。

ホールは、地域芸能の場として親しまれた柏尾川をイメージ。凹凸のある天井はたなびく雲を、縦格子の壁面は桜並木を表現し通路には柏尾川を流れる桜の花びらをちりばめた床材を採用した。音響シミュレーションにより、初期反射音が客席全体に適正に分布することを確認し、側壁には回転パネル式の残響可変装置を設置した。反射パネルと吸音パネルを入れ替えることで、残響時間1.1秒～1.6秒を実現し、音楽コンサートから講演会まで幅広い催し物に対応できるようにしている。また、振動伝播対策として浮遊音構造を採用し、室内騒音値NC-20を達成している。市民に親みのあるインテリアとすると同時に、良い響きと十分な静けさを確保した良質な音環境を実現した。



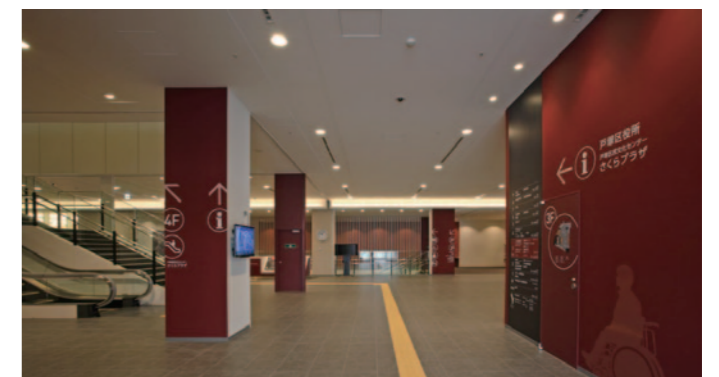
柏尾川の風景を展開したホール内観

市民参加型の施設づくり

市民参加型の施設づくりの取組みとして、フェーズ毎にユニバーサルデザインワークショップを開催。実物大のモックアップを用いたサインの検証や、トイレ・駐車場計画の見直しなど、各所に利用者の意見を盛り込み、使いやすさを追求している。屋上には食育の場となる農園や地域固有種によるビオトープを設置。敷地に近接して流れる柏尾川への眺望をすべての階から確保するなど、四季折々の風景が感じられる施設となっている。



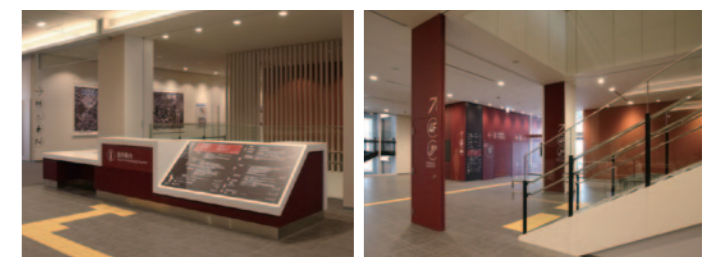
ユニバーサルデザインワークショップ



人にやさしい、わかりやすいサイングラフィック計画



子供たちの食育の場となる屋上農園



案内図

設計担当者
統括：八木 佳/建築：柴田 作、宮田 雅章、丹羽 大介、道越 勇輔、逸見 豪、千葉 洋、山田 泰史
構造：齋藤 一、佐々木 直幸/設備：弘本 真一、鈴木 雄介、萩原 亮平、中川 桂、杉谷 広哲

- 主要な採用技術（CASBEE準拠）
- Q2. 3. 対応性・更新性（メカニカルバルコニー、設備の更新性（維持管理面での工夫））
 - Q3. 1. 生物環境の保全と創出（外構緑化・建築緑化、地域の郷土種への配慮、野生小動物の生息域の確保・ビオトープ）
 - Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（建物配置や形態のまちなみとの調和、歴史性の継承、新たなシンボルの形成）
 - Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（豊かな中間領域の形成、建物利用者の設計への参加（ユニバーサルデザインワークショップ））
 - LR1. 2. 自然エネルギー利用（自然換気、太陽光発電）
 - LR3. 2. 地域環境への配慮（建築緑化、保水性・浸水性材料・高反射塗料、交通負荷軽減）